



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 零石 隆子

題号の背後にある芸協のシンボルマーク「雲」は、様々な分野の芸術家達がふんわり集まり、巻雲のように盛り上がりつつ纏まった姿を表す。創設当初の理事安倍郁二氏によるデザイン。

第58回宮城県芸術祭開幕 コロナ「緊急事態」乗り越え華やかに ガラコンサート復活、震災10年企画も

第58回宮城県芸術祭が9月25日、せんだいメディアアテークで開幕した。華道、書道を皮切りに、展示系の催事が続いた。昨年、見送った音楽コンクールガラコンサートも仙台銀行ホールイズミティ21で復活。新型コロナウイルス感染拡大に伴う「緊急事態宣言」発令を乗り越え、確かな実績を残した。東日本大



芸術祭華道展

震災から10年、節目を意識した企画も目立った。開催を待ちわびた県民らが足を運び、多彩、上質の芸術を堪能した。

大震災、新型コロナ禍でも途切れることなく開催してきた当協会のメイン事業。開幕まで1カ月を切る段階で政府が宮城県に緊急事態宣言を追加発令し、開催が危ぶまれたが、13日過ぎりのタイミングで解除が決定。施設使用が再開され、感染防止策を徹底し開幕にこぎ着けた。

ただ、先の読めない状態が続いていたため、メディアアテークでの開会式は見送った。各事業の開催を何より優先し、「安全・安心」な催事の実現に集中するの狙い。開会式は人数を絞る

にしても共催団体の代表者が集合し、密な状態が避け難く、感染防止を第一に考えた。芸術祭会長兼実行委員長の零石隆子理事長によるあいさつ文を会場入り口に掲示、開催に当たつての

「フォトサミット in Sendai 2021」が10月2～5日、せんだいメディアアテークで開かれた。当協会と河北新報社が連携、「みちのく写真新時代」を掲げ昨年、華々しく船出した全国公募展。今回、一定の質は保ったものの、長引く新型コロナ

応募者減少、今後に課題 フォトサミット2年度目 質は確保、発展の歩みを

新型コロナウイルス禍で撮影環境が厳しさを増す中、応募者の落ち込みを避けることはできなかった。

応募者は2336名(1055点、部門Ⅰ：自由部門770点、部門Ⅱ：東北の音161点、「東日本大震災から10年」の特別部

謝意と経緯を説明した。

本年度の芸術祭は華道、書道の展示で幕を開けた(9月25～28日)。開催を期待していた芸術ファンらが早々訪れ、精魂傾けた芸術作品との出合いを楽しんだ。メディアアテークでは、その後、写真展、写真公募展「フォトサミット in Sendai 2021」、絵画展(公募の部)、彫刻展、彫刻公募展(10月2～5日)、絵画展(10月9～12日)と続いた。

ガラコンサートは9月26日、門124点)。想定を大きく上回る350名(1614点)だった昨年を下回った。

2年度目は、注目度が低下する分、応募が減りがちだ。このため、目標を初年度の1割減に設定し、呼び水効果も狙いつつ震災10年の特別部門を設けて、落ち込みの抑制に努めた。

結果は、いまひとつだった。祭り等の中止が相次ぎ、外出すらはばかられる状況で、撮影や作品制作をめぐる過酷な環境が影響した側面があるに違いない。

第1回特有の記念応募にも支えられた前回は少々、出来過ぎで、以前の単独公募展の応募者が百名程度だったことを踏まえれば、「善戦」との見方もでき

2年ぶりに開催。本年2～3月の音楽コンクールで優秀な成績を収めた子どもたちが、晴れのステージで輝いた。

文芸祭は10月23日、東京エレクトロンホール宮城、工芸展は10月28日～11月1日、工芸公募展「杜のみやこ工芸展」と一緒にTFUギャラリイミニモリ、音楽会は11月12日、音楽コンクールは明年2～3月、共に日立システムズホール仙台で開催される予定だ。

る。ただ、河北写真展の応募者は例年400名ほどで、「遺産」を毀損してしまいうけにはいかない。東北以外の応募者が減少、広がりや欠いた結果も重く受け止めねばならない。要因を丁寧に分析し、改善すべきは改善して、催事の充実・発展を期したい。

作品の質はますます下がった。審査員を務めた写真家の赤城耕一氏は「賞決めに残る作品は芸術性に優れていた」と評価。その上で「応募点数は水準に関わるだけに、促進(の取り組み)が大事だ」と今後に期待を込めた。

作品を鑑賞していた入場者は「感性が豊かで表現の多彩さに驚いた」と写真芸術の奥深さを味わった。

る。ただ、河北写真展の応募者は例年400名ほどで、「遺産」を毀損してしまいうけにはいかない。東北以外の応募者が減少、広がりや欠いた結果も重く受け止めねばならない。要因を丁寧に分析し、改善すべきは改善して、催事の充実・発展を期したい。

作品の質はますます下がった。審査員を務めた写真家の赤城耕一氏は「賞決めに残る作品は芸術性に優れていた」と評価。その上で「応募点数は水準に関わるだけに、促進(の取り組み)が大事だ」と今後に期待を込めた。

作品を鑑賞していた入場者は「感性が豊かで表現の多彩さに驚いた」と写真芸術の奥深さを味わった。

【フォトサミット in Sendai 2021 (10月2～5日)】応募1055点のうち、入賞・入選121点を展示。昨年に比べ点数は減少したが、秀作が目についた。写真は「大賞受賞作品」雨上がり。】

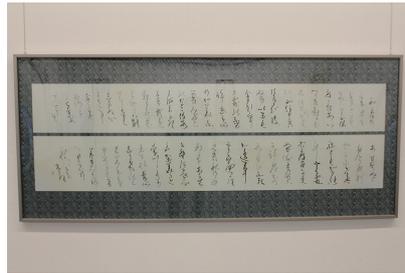


芸術祭フォトサミット in Sendai 2021



芸術祭書道展

【書道展 (9月25～28日)】 出展は役員54点、会員205点の259点。コロナ禍の中で、昨年を12点上回った。至芸の域へ、会員それぞれのたぎる情熱が作品にあふれていた。



芸術祭書道展

【書道展 (9月25～28日)】 最高賞、宮城県芸術祭賞の受賞作品。題名は「ほととぎす」(かな)。流れるような筆の運びで、墨の濃淡のバランスも見事。さわやかで味わい深さも際立った。

至芸の演 競



芸術祭華道展

【華道展 (9月25～28日)】 出展は前期・後期計42点。昨年に比べ倍増した。各流派が結束し、コロナ禍の困難を乗り越え高みを目指した成果を披露。空間の彩り、華やかさも倍加した。



芸術祭絵画展 (公募の部)

【絵画展・公募の部 (10月2～5日)】 出展は82点。昨年に比べ点数は減少したが、水準は保った。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞受賞作品。題名は「晒シモノ」。タッチが目を引く。



芸術祭写真展

【写真展 (10月2～5日)】 出展は68点。昨年に比べて、若干減少した。新型コロナに災いされた面も。ただ、時代を切り開くような力作が会場を埋め、入場者の心をときめかせた。



芸術祭彫刻展

【彫刻展 (10月2～5日)】 出展は23点。昨年に比べ点数は幾分、減少したものの、力作が多かった。「定番」に交って、ユニークな作品もあり、見応えのある作品展となった。



芸術祭写真展

【写真展 (10月2～5日)】 最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品。題名は「Artist of Miyagi」。4名の芸術家の内面に入り込むような描写は圧巻。モノクロ撮影も効果的。



芸術祭彫刻展

【彫刻展 (10月2～5日)】 最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品。作品名は「ハグしかねえ」。彫刻造形の基本を深く掘り下げ、その美しさを、力強さを鮮やかに表現してみせた。

【彫刻公募展(10月2〜5日)】
 応募は13点。入選10点を展示。高校生の応募、躍進が目立った。写真は最高賞、宮城県芸術協会賞を受賞した高校生の作品。題名は「Earth」。



芸術祭彫刻公募展



芸術祭絵画展

【絵画展(10月9〜12日)】
 最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品(日本画)。題名は「或る日の庭」。細部にまで目を配り、物言わぬ作品を雄弁に語らせる手業は秀逸。感動的であり、

コロナ服



芸術祭絵画展

【絵画展(10月9〜12日)】
 最高賞、宮城県芸術祭賞受賞作品(洋画)。作品名は「SEA SIDE PARK」。構図が巧みで色彩も重厚。想像力がキャンパスにあふれた。

【絵画展(10月9〜12日)】
 日本画29点、洋画175点、役員76点を展示。力作がそろい、震災10年の特別企画として、兵庫県から招待7作品も加わり、重みと味わいを増した。



芸術祭絵画展

2年ぶり、ガラコンサート 子どもたち、充実の演奏

音楽コンクール受賞者によるガラコンサートが9月26日、仙台銀行ホールイズミティ21で開かれた。芸術祭の一環とし



ガラコンサート

て、2〜3月に開かれた音楽コンクールで入賞した子どもたちに、改めて演奏の舞台を用意し、精進と飛躍の弾みにしてもらおう人育成事業。約半年間、練習を重ねた成果をホールいっぱい響かせ、それぞれに輝いた。

ガラコンは昨年、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、音楽コンクール本選とともに実施が見送られており、開催は2年ぶり。出演したのはピアノ、ヴァ

諸懸案を協議、対応を了承 第2回理事会を開催

令和3年度第2回理事会が8月2日、協会会議室で開かれた。理事17人中12人が出席し、報告、議案を全て了承した。

栗石隆子理事長が議長を務めた。提出案件は報告4件、議案2件。報告では令和3年度芸術協会功績者表彰の推薦者を紹介し、部の活動促進と震災10年に即した活動への予算措置については現段階で4部門、7事業が内定していることを説明。了承された。議案は正会員の入会と賛助会員の推薦。いずれも「異議なし」として可決、承認された。これで、3年度の正会員は49名(当初見

イオリン両部門で入賞するなど優秀な成績を収めた「未来の演奏家」、21人。コロナの動向を気に掛けつつ晴れの機会を目標に修練に励み、前日のリハーサルを経て臨んだ子どもたちは、緊張感に包まれながら、精いっぱい演奏を披露。ステージに「成長の花」を咲かせた。参加者対象のアンケートで、開催に感謝するとともに評価する声があふれた。

込み50人)、賛助会員は116名(個人38、団体78)となった。その他として、宮城県から検討の要請があった吉林省との交流事業への参加、令和4年度の協会運営、役員人事の3件を論議。交流事業については、参加の方針を了承し、せんだいメディアテークの大規模改修実施を受けて明年、芸術祭の開幕が7月上旬に前倒しを迫られるのに伴う協会運営も基本的な理解を得た。また、役員の人事については、万一、体調不良等で欠ける不測の事態が生じた場合、備えとして補充の在り方を明示しておくべきとの判断に基づく提起。年度内を目標に対応策を整理し、理事会に諮る方向だ。

震災10年、続々節目の企画 防災・復興、思い新たに

東日本大震災から10年が経過。大きな区切りの今年、当協会に関連する事業が相次いだ。本年度の方針で、適時性重視の取り組みを促したこともあり、芸術祭等の事業を通じて、多くの部門が節目に向き合った。入場した多くの人たちも、あの日を思いをさせ、祈りと思案の時間をかみしめた。

いた創立20周年記念(東日本大震災10年・阪神淡路大震災26年)の協議会展に賛助出品。その返礼の意味を込めて、10月9〜12日、せんだいメディアテークで開いた県芸術祭絵画展に協議会側が作品7点を寄せた。

震災10年のこの機に、被災県の芸術・絵画団体同士の絆が深まった。互いに刺激し合うことで、今後の芸術文化の振興・発展が期待される。

写真部はフォトサミットで特別部門「東日本大震災から10年」を特設したほか、芸術祭写真展



作品の交流展示



モニターを見る入場者



特集を盛り込んだ文芸年鑑

「震災から、10年を振り返って。」(2011〜2021)を企画。関連する写真、動画をモニターで展示した。10年の歩み、変化をそれぞれの切り口で表現。被災地に生きる芸術家の在りようと覚悟を示し、共感を呼んだ。

文芸部は10月15日、文芸年鑑を発行した。今回、震災10年の特別企画として震災関連の特集ページを創設。書下ろし作品を募集し、組み込んだ。作品は詩、短歌、俳句、川柳、散文・小説(短編)を網羅。あの日に関わる思いを言葉で表現した。

また、各催事において、特設、震災10年を統一的なテーマに掲げたり、コーナーを設けたりはしないものの、制作動機や題材、題名に思いを託した作品の展示もあった。

入場者や参加者の中には「現在地を見詰め直すいい機会。時宜を得た企画で、芸術の意味を考えさせられました」と、感動の面持ちで話す人もいた。

2年ぶりに「文学散歩」 震災10年、被災地巡る

宮城県芸術祭の一環、「文学散歩」が10月7日、非会員を含めて21名が参加して行われた。



震災遺構の前に語り部の話を聞く参加者

犠牲となった石巻市の旧大川小学校の震災遺構や、津波の直撃を受け壊滅した旧野蒜駅を生かした東松島市震災復興伝承館など、被災地をじっくりと回り、震災と復興の現実を学び直した。

旧大川小では、語り部の話に耳を傾けた。元中学校教諭でわが子を亡くした一人でもある佐藤敏郎さんは、大きく姿を変えた学び舎を背にし、「ここに子どもたちの歓声が響いた当たり前の日常があったことを想像してもらいたい」と語り掛けた。

人的被害が避けられたことを、そこに逃げれば助かったはずの校舎の裏山を確認し、実際、津波襲来の1分前に避難した経路を歩くなど、事実の重さを感じた。佐藤さんは「震災遺構が未来を拓く場所であってほしい」と結んだ。

震災復興伝承館には、JR旧野蒜駅のホームと巨大津波でねじ曲げられた線路の一部が保存されていた。津波前を知る人は、破壊され尽くした駅周辺の様子に言葉を失うに違いない。

ニュースや書籍では感じ得ないリアルな現地の印象は、やがて会員の作品に昇華されていくことだろう。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大で中止されており、開催は2年ぶり。東日本大震災から10年を踏まえて、今回はバスで沿岸被災地をめぐる行程。震災10年を意識した今回の芸術祭にふさわしい視察旅行となった。コースは石巻、東松島両市が軸。児童、教師合わせて84名が

第 58 回宮城県芸術祭受賞者（会員の部）

賞 名	部 門	作 品 名	氏 名
宮 城 県 芸 術 祭 賞	書 道 部	ほ と と ぎ す(か な)	岸 本 清 舟(仙 台 市)
	写 真 部	Artists of Miyagi	伊 藤 トオル(仙 台 市)
	彫 刻 部	ハ グ し か ね え	清 水 直 土(仙 台 市)
	絵 画 部(日 本 画)	或 る 日 の 庭	中 邨 圭 子(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	SEA SIDE PARK	大 坂 祥 春(大 崎 市)
宮 城 県 知 事 賞	文 芸 部	時 は 流 れ る(俳 句)	野 田 青 玲 子(仙 台 市)
	書 道 部	姚 汝 循 詩(漢 字)	阿 部 香 華(仙 台 市)
	写 真 部	セルフポートレート	阿 部 和 美(多 賀 城 市)
	彫 刻 部	H i n o m a l u 2 0 2 1	畠 山 卓 也(登 米 市)
	絵 画 部(日 本 画)	ほ た ん	佐 々 木 智 朗(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	解析されたイメージの彼方へ	小 西 達 也(仙 台 市)
	文 芸 部	哀しみの歌を歌うな(詩)	汐 海 治 美(仙 台 市)
	文 芸 部	ふるさとの山(短 歌)	沼 沢 修(仙 台 市)
仙 台 市 長 賞	文 芸 部	美 しい 余 白(川 柳)	浜 田 則 子(仙 台 市)
	文 芸 部	ア ル ト(俳 句)	宮 野 かほる(美 里 町)
	書 道 部	「豆を煮る」より(近代詩文)	佐 藤 華 炎(仙 台 市)
河 北 新 報 社 賞	絵 画 部(日 本 画)	糸 偏	土 屋 薫(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	生 命 譜(2020 ~ 2021)	渡 邊 昭 硯(仙 台 市)
	書 道 部	近 作 二 種(篆 刻)	菊 地 孝 夫(仙 台 市)
	写 真 部	傷 跡	佐 藤 龍 朗(仙 台 市)
	彫 刻 部	紡ぐ…産業廃棄物ラインケーブルと遊ぶ	丹 野 智 子(仙 台 市)
宮 城 県 教 育 委 員 会 教 育 長 賞	絵 画 部(日 本 画)	秋 滝	深 村 宝 丘(石 巻 市)
	絵 画 部(洋 画)	E - M - A - S	大 内 隆(松 島 町)
	文 芸 部	無 想 転 生(川 柳)	須 田 たかゆき(仙 台 市)
宮 城 県 教 育 委 員 会 教 育 長 特 別 賞	書 道 部	破 魔(少 字)	佐 々 木 藤 恵(塩 釜 市)
	絵 画 部(洋 画)	今 日 は 休 日	柏 谷 佳 代 子(石 巻 市)
	書 道 部	バ タ フ ラ イ(墨 象)	浅 野 彩 紅(仙 台 市)
仙 台 市 教 育 委 員 会 教 育 長 賞	書 道 部	胡 儼 詩(漢 字)	板 橋 翠 苑(仙 台 市)
	絵 画 部(日 本 画)	収 獲 の 時	千 葉 えつ子(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	F o a m - 2 1	高 橋 順 子(仙 台 市)
宮 城 県 議 会 議 長 賞	書 道 部	正 木 ゆう子 の 句(近 代 詩 文)	木 村 笙 園(大 崎 市)
	絵 画 部(洋 画)	変 わ る 世 界	菅 原 さち子(仙 台 市)
仙 台 市 議 会 議 長 賞	書 道 部	杜 甫 詩(漢 字)	吉 岡 芝 耕(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	Leonardoへのオマージューそしてこれからー	大 竹 幸 子(仙 台 市)
公 益 財 団 法 人 宮 城 県 文 化 振 興 財 団 賞	書 道 部	佐 藤 慶 子 の 歌(近 代 詩 文)	太 田 栄 美 子(仙 台 市)
	書 道 部	王 維 詩(漢 字)	小 元 佳 香(大 崎 市)
	書 道 部	金子みすゞの詩「私の髪は光るのほ」(近 代 詩 文)	笹 野 美 智 子(仙 台 市)
	書 道 部	巖 谷 一 六 詩「僧 房 聴 雨 他 一 首」(漢 字)	鈴 木 東 鳳(大 崎 市)
公 益 財 団 法 人 仙 台 市 市 民 文 化 事 業 団 賞	写 真 部	白 鷺 の 透 眼	佐 藤 明(柴 田 町)
	絵 画 部(洋 画)	S E C T I O N 2 1 1 0	金 子 玲 子(仙 台 市)
	文 芸 部	金 剛 の 蕾(俳 句)	佐 野 久 乃(仙 台 市)
公 益 財 団 法 人 カ メ イ 社 会 教 育 振 興 財 団 賞	書 道 部	時 間(近 代 詩 文)	小 嶋 カズ子(仙 台 市)
	写 真 部	古 里 に 生 き る	兵 藤 博 行(栗 原 市)
	絵 画 部(日 本 画)	孤 鶴	山 本 政 彰(仙 台 市)
菅 野 美 術 館 賞	絵 画 部(洋 画)	DIVINE-INSPIRATION	岡 崎 義 恵(仙 台 市)
	絵 画 部(日 本 画)	三 月 の 鯉 の ぼ り	小 泉 百 合 子(多 賀 城 市)
門 伝 勝 太 郎 賞	絵 画 部(洋 画)	留 ま る も の は 何 も な い(3の1)	阿 部 正 彦(気 仙 沼 市)
	彫 刻 部	取 り 残 さ れ た 月	中 村 た み 子(石 巻 市)
宮 城 県 芸 術 祭 奨 励 賞	書 道 部	王 漁 洋 詩「三 峡 橋」(漢 字)	江 村 耕 芳(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	2 0 2 0 a u t u m n	渡 辺 均(仙 台 市)
	書 道 部	あ の 日(近 代 詩 文)	宍 戸 緋 沙(大 崎 市)
	書 道 部	包 む(墨 象)	中 塩 朱 華(涌 谷 町)
	書 道 部	軌 道(少 字)	畠 中 成 山(石 巻 市)
	書 道 部	陸 師 詩(漢 字)	岩 佐 春 泉(仙 台 市)
	書 道 部	朱 国 祚 詩(漢 字)	宍 戸 青 園(岩 沼 市)
	書 道 部	吉 田 一 穂 の 詩 よ り(近 代 詩 文)	建 部 紘 子(多 賀 城 市)
	写 真 部	問 答	林 茂(仙 台 市)
	写 真 部	砂 丘 の 風 景	米 山 光 昭(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	「再 生」	板 橋 か お り(仙 台 市)
	絵 画 部(洋 画)	記 憶 と 断 片 の 交 感	畑 中 良 二(石 巻 市)
	絵 画 部(洋 画)	落 光	柴 田 治(仙 台 市)
	文 芸 部	時 の 流 れ に(短 歌)	堀 江 正 夫(栗 原 市)

※工芸部の受賞者は10月下旬決定の予定

第58回宮城県芸術祭 絵画展(公募の部) 彫刻公募展 フォトサミット in Sendai 2021 受賞者

部門	賞名	作品名	氏名
絵画展(公募の部)	宮城県芸術協会賞	晒シモノ	蜂谷 幾凜 (仙台市)
	優秀賞	夜明け	成瀬 日香留 (仙台市)
	優秀賞	望郷II	小泉 留美子 (仙台市)
	優秀賞	E d e n	及川 幸子 (仙台市)
	優秀賞	夢のあと	堤内 一美 (仙台市)
	奨励賞	ひとと	渋谷 久子 (仙台市)
	奨励賞	光～誰そ彼	吉田 瀬七 (気仙沼市)
	奨励賞	銀河	熊谷 治子 (利府町)
	奨励賞	卓上の静物	風越 幸恵 (福島県)
	奨励賞	口のくさり	丹野 ゆき子 (富谷市)
彫刻公募展	宮城県芸術協会賞	E a r t h	スワン 聖里奈 (仙台市)
	奨励賞	奇想	早坂 紗世 (仙台市)
フォトサミット in Sendai 2021	フォトサミット in Sendai 大賞	雨上がりに	佐藤 徳文 (利府町)
	河北新報社賞	なかよし	佐藤 昭夫 (大崎市)
	特別部門賞	復興・沸き立つ歓喜	阿部 暢 (東松島市)
	宮城県知事賞	解体を待つ復元	大友 紀夫 (仙台市)
	青森県知事賞	カモメ乱舞	藤島 純七 (仙台市)
	岩手県知事賞	あやめ園を行く	庄子 源六 (仙台市)
	秋田県知事賞	轟く	熊谷 仁志 (秋田県)
	山形県知事賞	御釜に架かる天の川	木村 洋介 (石巻市)
	福島県知事賞	夢幻	今野 功 (仙台市)
	仙台市長賞	忘れない、祈りは続く	相沢 弘毅 (塩釜市)
	宮城県教育委員会教育長賞	伝統の響	三浦 早苗 (大崎市)
	仙台市教育委員会教育長賞	鉄橋を渡る列車	大関 一泰 (仙台市)
	宮城県議会議長賞	波の上	中島 澄江 (仙台市)
	仙台市議会議長賞	子まもり	氏家 国浩 (大崎市)
	(公財)宮城県文化振興財団賞	鎮魂の祈り	飯 渕 弘 (仙台市)
	大崎市長賞	雪中田植え	永澤 孝志 (利府町)
	J A L 賞	あの日影法師	相馬 達也 (埼玉県)
	東北電力賞	姫たちの輪舞	谷藤 幸治 (仙台市)
	東北放送賞	漁村寸景	佐藤 のり子 (仙台市)
	ニコン賞	燃ゆる	狩野 良介 (塩釜市)
	堀内カラー賞	歩み	相沢 開 (石巻市)
	t c d東北カラーデューブ賞	唯今学習中	青田 真 (利府町)



写真シンポジウム

2021の関連イベント、写真シンポジウムが10月2日、せんだいメデアターク7階スタジオシアターで開かれた。昨年にくらべて2回目の今回のテーマは「巨匠に学ぶ」。フォトサミットの審査員を務めた写真家の赤城耕一氏、元TVプロデューサーの大野克己氏が当協

写真シンポジウム
「巨匠に学ぶ」テーマに討論



河北新報社賞受賞作品

「優れた作品の鑑賞により気づき、研究を深めることで飛躍につなげてほしい」と、約20人の参加者に語り掛けた。

会理事の落合英俊氏の司会・進行でパネル討論を行った。冒頭、今回の公募展について、赤城、大野両氏が上位入賞3作品、フォトサミット in Sendai 大賞の「雨上がり」、河北新報社賞の「なかよし」、特別部門賞の「復興・沸き立つ歓喜」を例に挙げて講評。「何気ない一枚だが、日常の不思議が表現され心に染みた」「3人の表情がよく、映画のワンカットのよう」などと指摘し、視点の鋭さをたたえた。続いて、著名な写真家と作品等をスライドで紹介。3氏の鼎談の雰囲気、交流を通じたエピソードをふんだんに織り交ぜて、その個性、特長を解説した。



特別部門賞受賞作品



太田蓮紅 (幸恵) 氏
美術 (書) 美里町

県芸術祭で入賞を繰り返す、河北書道展、書道芸術院展等、県内外の展示会に多数出品。前衛書部の中心として活躍し、円熟期にありながら探求心は衰えを知らない。「蓮紅社」を主宰し、県を超え後進の指導にも努めている。県芸術協会理事。72歳。

受賞に驚いています。年女の今年、展覧会の賞とは異なる最高の賞を頂戴し、うれしく思います。支えていただいた皆さんに感謝するほかありません。前衛書という新しい形態の書に出合い、掘り下げる日々でした。

書の可能性を追求

そうした積み重ねが認められたというのでしょうか。今後とも書の可能性を追い求めるとともに、理解を広げる活動に努め、次代を担う後進の育成に励み、榮譽に報いたいと考えています。



村山耕二氏
美術 (工芸・ガラス) 仙台市

県芸術祭賞をはじめ、内外の公募展で入賞多数。仙台市秋保に「海馬ガラス工房」を設立。活動は多彩。サハラ砂漠や県内河川の砂による創作を探索。「仙台ガラス」と震災復興関連で「雄勝ガラス」を制作、グッドデザイン賞を2度受賞した。54歳。

記憶に残る仕事を、と名付けた工房を当地に立ち上げ26年。ガラスの可能性を追求し、形にすることに挑戦してきた実績が評価されたとすれば、うれしい限りです。原料の砂を通して、土地の色、風合いが異なるガラ

社会貢献強く意識

ス芸術の多様性、魅力を感じてほしいですね。社会貢献も強く意識し、被災地の砂による創作にも取り組んできました。受賞を機に今後はより一層、宮城の文化発信に努めたいと思います。



安彦文平氏
美術 (絵画) 仙台市

公募展で入賞を重ねるなど、活躍が目覚ましい。写実絵画を追求し、自然を独自の視点と精密な筆致で描き出す。宮城教育大准教授。大学のみならず、各絵画教室を通じて後進を指導し、有為な人材の輩出に寄与している。絵画部運営委員。52歳。

東京出身で宮城県に縁が出来る14年目。優秀な先生方がおられる中での受賞、本当にありがとうございます。写実の世界は奥が深く、生涯をかけて探求すべきもの。今回の荣誉、さらに精進せよとの励ましと受け

絵画底上げに努力

止めています。大学教育に携わる者として、学生の指導に尽くすのは当然ですが、一般の方々への助言機会をより積極的に持つて、宮城の絵画の底上げにも貢献していきたいと考えています。

芸術選奨に3氏 光る業績、評価も高く

令和3年度の宮城県芸術選奨受賞者が決まり、11月29日に県庁舎内で授賞式が行われる。受賞者は芸術選奨5人、同新人賞5人。当協会の会員、美術(洋画)の安彦文平氏、美術(工芸・ガ

ラス)の村山耕二氏、美術(書)の太田蓮紅(幸恵)氏が芸術選奨に輝いた。県の芸術文化の発展に尽くされ、芸術祭をはじめ協会活動にも貢献された皆さんの業績と喜びの声を紹介する。

文化の日表彰受賞者に 会員の3氏が選ばれる

令和3年の文化の日表彰受賞者(教育文化功労)が決まった。芸術・文化の分野において長年、普及・発展に尽くし、地域活動等に多大の貢献をした5名の方々に、当協会からは宮澤寒山(利彰)さん(邦楽・三曲、協会参事) 仙台市、浅野治志さん(工芸・陶芸、理事) 仙台市、高野芳月(静枝)さん(書道、運営委員) 多賀城市、の3名の会員が選ばれた。宮澤さんは県内邦楽界の重鎮。各催事を通して伝統文化の尺八等の普及に努めた。幹部として協会の発展にも尽力。いまなお一線で活躍し続けている。浅野さんは、独創的な作品を手掛けるほか、宮城教育大で長年、精力的に後進を指導。県内外で展示会を企画し、国際交流にも取り組んでいる。

高野さんは日々、研さんを重ねて、奥義を窮める一方、篆刻の団体の役割を務め、一般に楽しみが薄いとされる分野の普及、底辺拡大にも努めている。11月25日に行われる予定の第58回宮城県芸術祭の表彰式の席上、披露される。

我妻さん、音楽国際大会で3位
蔵王町職員、「音楽で町に貢献」

洋楽部(声楽)会員で宮城県蔵王町職員の我妻健太さんが、第1回伊勢志摩国際声楽コンクールで日本人最高位の3位入賞(1、2位は米国勢)に輝いた。

新型コロナウイルスの感染防止の見地から、コンクールは動画審査形式で実施。米国や中国、日本国内から64人が応募した。

25日、第58回芸術祭表彰式
ホテルメトロポリタン仙台

第58回宮城県芸術祭表彰式が11月25日、ホテルメトロポリタン仙台で行われる。昨年は未知の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、急ぎよ、会場をトークネットホール仙台(市民会館)に変更しており、ホテルでの開

新運営委員

【工芸部】馬場興彦

新入会員

【書道部】佐藤範子 仙台市青葉区
【舞踊部】水木和歌那(小川明美) 仙台市青葉区
【文芸部】石則子 石巻市
【写真部】山本イサム(勇) 仙台市太白区

私達は芸術協会を応援します

新賛助会員

募した。我妻さんは課題の自由曲としてモーツアルトの正歌劇「イドメネオ」から選曲。丹念に丁寧に歌うことを心掛け、忙しい仕事の合間に磨いたテクノロジーを響かせた。

仙台市出身。京都市立芸大声乐専攻を卒業。仙南に居住し活動の場は限られるが、一昨年、地元蔵王町であった「みやぎミュージックフェスタ」でも歌唱の力を披露した。

催は2年ぶり。コロナ禍の状況を見定めつつ、茶話会形式での実施を模索する。

開会は午後2時。今年も祝宴を見送り、簡素化を図る。出席は受賞者、協会功績者、文化の日表彰者らの協会会員のほか、共催団体及び賞交付団体代表者、協会役員、各部長と副部長にとどめる。

(団体)

◇株式会社アネステイ 代表取締役 永根 悦郎 様

(個人)
◇村松 秀雄 様
◇佐々木 康晴 様

事務局日誌

会務報告

【第2回理事会】8月2日
・正会員の入会について
・賛助会員の推薦について

後援

☆第28回宮城独立美術展
8月27日～9月1日

☆全日やまのフェア in みやぎ2022
10月7～11日

☆東北書道秀技展
10月15～20日

☆第15回桃源書展
10月22～25日

☆高橋麻子企画 音楽の旅第14弾
「フランスより オープエ作品と夜のガスパール」
11月3日

☆常盤木学園高等学校
第2回函南書道役員展
11月12～18日

☆せんだいメディアアテーク
フロコロ・マンドリン・ステイコ・フロシア
第56回定期演奏会
11月13日

☆日立システムズホール仙台
第45回一般社団法人二科会写真部東北地区公募展
11月25～29日

☆山形県芸文美術館
第45回教育書道学生部展
11月26～28日

☆宮城県美術館
第45回素心書道会書展
11月26～28日

☆仙台ピアノデュオの会会員による第21回デュオコンサート
11月30日

☆仙台銀行ホールイブズミティ21
第29回宮城シニア美術展
12月2～5日

☆宮城県美術館
第14回河北小中学生書道展
12月3～5日

☆TFUGギャラリーミニモリ

☆歳末たすけ合い第58回各流舞踊大会
12月5日

☆電力ホール
第39回メサイア演奏会
12月10日

☆日立システムズホール仙台
レパートリーコンサート9
1月10日

☆シルバーセンター

会員の入賞・入選など

(事務局に連絡があったもの)

◇第105回記念二科展
▽入選 小野寺さゆり、及川寿美子、沼田明里、加藤元、畑中良二、沼田希世、堀野京子、関谷登、大山カリーナ、中村たみ子

◇第74回二紀展
(絵画の部) 準会員賞 阿部好江

◇第八回日展
(第一科(日本画)) 入選 奥山和子

受贈書

() は寄贈者
『菊地栄子歌集 賢道』(菊地栄子)、『句集 トマトの花』(成田一子)、『十年目の今、東日本大震災句集わたしの一句』(宮城県俳句協会)

謹弔

書道部 及川 とし子 殿
令和元年11月30日

賛助(個人) 西條 麗子 殿
6月18日

文芸部(短歌) 清野 たき子 殿
8月11日

けやきの譜

第58回宮城県芸術祭がコロナ下で開幕。各会場とも力作が並んだ。県は感染状況が改善し、開会直後に「まん延防止等重点措置」が終了、コロナ以前の歩みを取り戻しつつある。ただ、第6波の可能性が指摘され、「終幕」は見通せない。経済活動が日常を取り戻し、わたしたちの文化活動が多くの人々に感動をもたらす、そんな当たり前がわが手に戻り、未永く続くことを心から祈る。一つの幕引きは、新たな物語の開幕を告げる。社会現象を見ると「今だけ、金だけ、自分だけ」(鈴木宣弘東大教授の言葉)を当てはめてみてはどうだろう。その現象は歴史や未来をどのように映しているか。また、拝金主義、経済至上主義ではないのか、それ以外の価値をどこに見いだすのか、誰に利益をもたらすものなのか。日本人が本来持っているはずの、持つていてほしい相手を思いやる精神が失われることによつて、身勝手な社会を闊歩する。嫌な時代だ。文化はこうした厄介な世相の中で、わたしたちが本来の姿を取り戻す最良の方法の一つに思えてならない。(英)